

大野城市の文化財

第45集
水城をあるく！



水城跡と大野城跡

2014
大野城市教育委員会

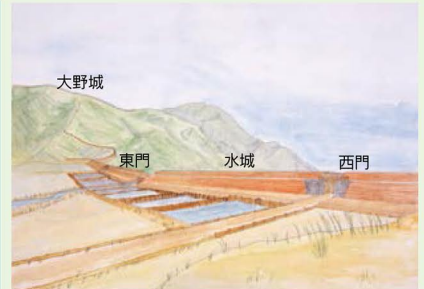


みずき 水城ってなんだろう？

水城は、西暦664年につくられた古代の防衛施設です。7世紀の朝鮮半島では、高句麗・新羅・百濟、中国の唐があらそい、660年に倭(今の日本)と仲がよかった百濟がほろんでしまいました。倭は百濟を救うため、663年に大軍を送りますが、白村江の戦いで唐・新羅の軍にやぶれてしまいます。このため、倭は唐・新羅の軍がせめてくることを恐れ、福岡平野が最もせまくなる部分をふさぐように水城をつくりました。



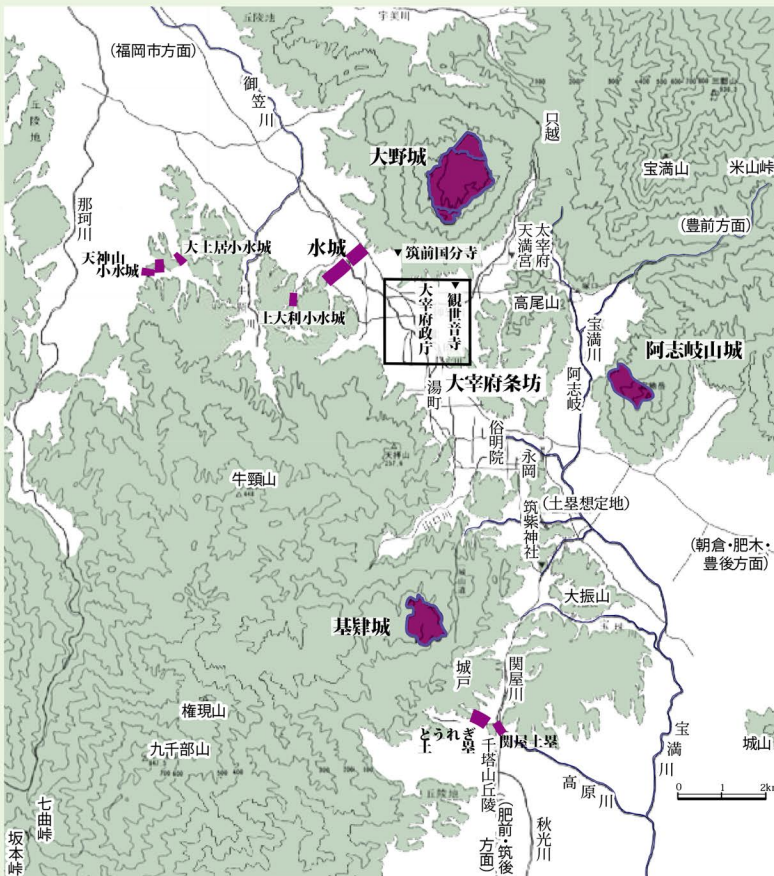
7世紀の東アジアのようす



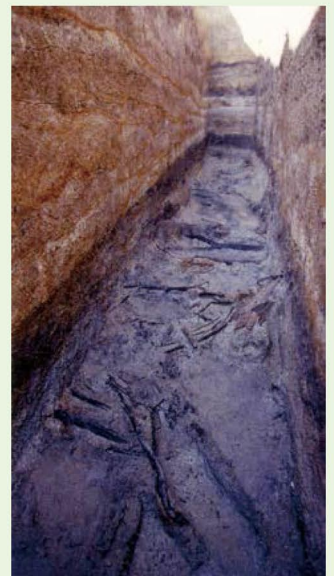
水城の復元図 (九州歴史資料館提供)

土罫はどうやってつみ上げたの？

土をつみ上げるとき、そこが軟らかい地ばんである場合は土を高くつみ上げることができません。このため、木のえだや葉をしきならべた敷粗朶の上に土をつみ上げ、地ばんを補強しています。また、土罫は粘しつ土と砂しつ土を何層もつみ重ねて突き固める版築工法を使っています。こうした土は、まわりの山や濠をほった土をつかったようです。地図⑤



水城・大野城と基肆城(大野城・基肆城は、水城がつくられた次の年(665年)につくられました。)



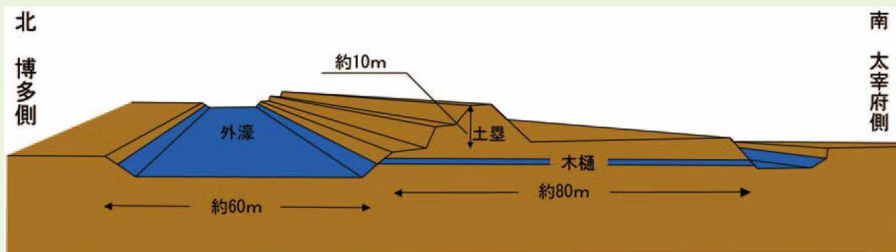
版築と敷粗朶 (九州歴史資料館提供)

水はどこに溜めたの？

はじめ、土塁の南側（太宰府側）に水を溜めたと考えられていましたが、昭和50年の発掘で、幅約60m、深さ約4mの濠が土塁の北側（博多側）で見つかりました（外濠）。また、その後の調査で内側にも濠があることがわかりました（内濠）。さらに内濠と外濠は分厚い木の板を組み合わせた木樋によってつながっており、内濠から外濠にむかって水をながしていたこともわかりました。地図⑧



木樋のようす（九州歴史資料館提供）



水城土塁の断面図

水城東門と西門ってなあに？

水城には東と西の2ヶ所に門がありました。それぞれの門からは北側に向かって官道（古代の道路）が直線的にのびており、西門は鴻臚館、東門は博多方面へ通じ、大宰府とほかの地域を結ぶ大切な役割をはたしました。地図③⑦



水城跡周辺の古代の道路

ほかにも水城があるの？

水城の西側には、「小水城」とよばれる小さな土塁があります。小水域は、大野城市の上大利・春日市の春日・小倉・大土居・天神山にあり、敵が水城をさけて大宰府に攻めこむことをふせぐ役割があつたと考えられています。大土居小水城では、土塁は水城と同じ版築によってつくられ、木樋も見つかりました。また、大土居や上大利の小水城の前面は濠ではなく、湿地のような場所であつたこともわかっています。

水城の修理

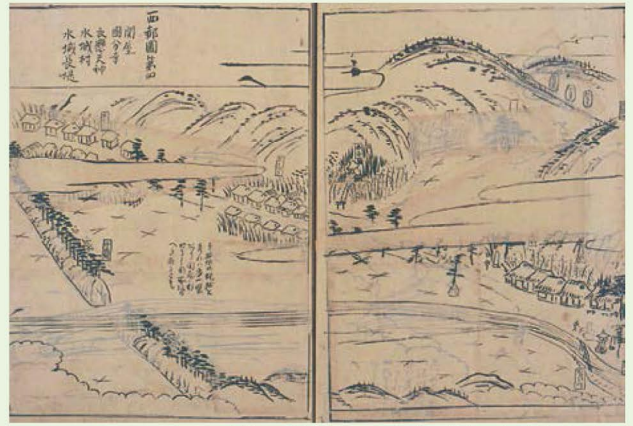
東門の近くから、奈良時代の中頃に作られた瓦を焼く窯跡が見つかっています。瓦は建物の屋根に使われます。『続日本紀』という記録には、奈良時代の中頃に水城の修理が行われた記事があり、瓦窯跡はこれに関係しているのではないかと考えられています。また、発掘調査ではあちこちで土塁をつみなおした所が見つかり、水城はいくどか修理をされているようです。地図⑨



水城で見つかった瓦窯跡 (太宰府市教育委員会提供)

その後の水城

けつきよく、唐・新羅の軍はせめてくることありませんでした。防御施設として使われなくなった水城は、次第に様子を変えていきます。鎌倉時代には、濠は埋まって水田に変わり、門もなくなっていたようです。水城は木々に覆われ、山ようになっていきますが、地元の人々は、古代の大切な歴史遺産であると語り継ぎ、大切に守ってきました。



江戸時代の水城跡のようす (福岡市博物館所蔵)

初めておこなわれた水城の調査

1913年(大正2年)、福岡を訪れていた東京帝国大学の黒板勝美教授は、現在のJR水城駅付近で鉄道の工事により水城が掘削されていることを知り、九州帝国大学の中山平次郎教授とともに調査を行いました。調査では土塁のくわしい観察が行われ、スケッチにはつみ上げた土のようすがていねいに描かれています。この時の調査は水城で行われた初めての学術調査で、とても大切な成果となりました。地図⑤



大正時代に描かれた水城の絵 (東京大学日本史学研究室所蔵、九州歴史資料館提供)

水城にまつわる伝説

水城の西側と東側ではよく似た伝説が伝わっています。どちらも水城ではたっていた人たちが、土塁ができあがったという知らせを聞いてかついでいた土をその場に投げ出したら、その土が山のようなものになったというものです。水城築造に関わった人々の苦しみや完成した時のよろこびを伝えるとてもユニークな伝説です。その伝説の地である父子嶋は、JR水城駅の西側に小さな丘として残っています。地図⑥



父子嶋の伝説のイラスト